

第1 監査の対象

勝川開発株式会社

第2 監査の期間

令和4年10月31日から令和5年1月17日まで

第3 監査の方法

勝川開発株式会社における出納その他の事務が関係法令等に基づき適正に行われているかについて、春日井市監査基準に準拠し、主として令和4年度の関係書類を調査するとともに、関係職員から説明の聴取及び現地調査を行った。

なお、監査は次のとおり主な着眼点を設定し、対象となる事項について調査を行った。

1 所管課に関する事務

- (1) 出資による権利は財産台帳に登録され、決算書類に適正に表示されているか。
- (2) 出資団体の経営成績及び財政状態を十分把握し、適切な指導監督を行っているか。

2 勝川開発株式会社に関する事務

- (1) 定款、経理規程等の諸規程は整備されているか。
- (2) 出資目的に沿った事業運営が行われているか。
- (3) 経営成績及び財政状態は良好か。
- (4) 会計経理及び財産管理は適切か。
- (5) 資金の運用は適切で、経費節減は図られているか。
- (6) 関係帳票の整備・記帳及び領収書等の証拠書類の整備・保存は適切か。

第4 監査の結果

勝川開発株式会社は、出資目的に沿って事業が運営され、調査を行った事項はおおむね適正に執行されていると認めた。

第5 意見

地方自治法第199条第10項の規定に基づき、監査の結果に関する報告に添えて、経済性・効率性・有効性等の観点から次の意見を提出する。今後の事務の執行に当たっては、必要に応じて適切に対応されたい。

1 所管課及び勝川開発株式会社に関する事務

経営健全化に向けた取組のさらなる推進について（経済性・有効性）

勝川開発株式会社は、勝川駅周辺の活性化と魅力あるまちづくりを推進するため、平成8年に春日井市、商工会議所及び市内企業の出資により第三セクターとして設立され、勝川駅前の再開発ビル（ホテル棟等）の管理や不動産賃貸事業、市施設の指定管理業務、子会社（100%出資）である株式会社ホテルプラザ勝川の経営指導等を行っている。

令和3年度の勝川開発株式会社の業績は、全般的に事業が順調に推移したことや経費削減に努めた結果、経常利益は前年度と比較し増加していた。とはいえ、新型コロナウイルス感染症の影響を受け業績が悪化した株式会社ホテルプラザ勝川の賃貸料を一部減免し、減免に伴う債権放棄損を特別損失として計上している。また、依然として市からの長期借入金の返済があることに加え、施設の老朽化に伴う設備更新や修繕にかかる費用の増加が見込まれることから、さらに厳しい経営状況が続くことが想定される。

国においては、令和4年9月に「With コロナに向けた政策の考え方」として、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るという方針が示されており、今後は新型コロナウイルス感染症との併存を視野に入れた事業展開が必要となる。

については、経営を取り巻く環境が大きく変化する状況下において、市との連絡調整を密に行うなどさらに連携を強化し、不動産賃貸や指定管理者として公の施設の管理を適切に行うことはもとより、とりわけ株式会社ホテルプラザ勝川については、その経営状況の検証を行い新規事業拡大による顧客の開拓や利用者満足度向上によるリピート客の確保などを推進し、再建計画に掲げた売上目標の達成に向けた管理を徹底するなど経営指導等の強化を図り、ホテル事業を含めた経営の健全化に向けた取組のさらなる推進を望むものである。

第6 勝川開発株式会社の概要

1 概況

(1) 設立目的

勝川開発株式会社は、勝川駅周辺の活性化と魅力あるまちづくりを推進し、併せて健全なビルの管理運営を図ることを目的とする。

(2) 組織（令和4年10月1日現在）

ア 会社役員（取締役社長1名、専務取締役1名、常務取締役1名、取締役6名、監査役2名）

イ 職員数8名（社員5名、パートタイマー3名）

(3) 市との関係

勝川開発株式会社は、春日井市の西の玄関づくりを目標とした勝川駅周辺総合整備計画に基づいて整備された公共・公益施設の管理運営を行うため、春日井市が資本金の2分の1以上を出資している株式会社で、勝川駅周辺の活性化と魅力あるまちづくりを推進している。

令和4年3月31日現在、株主数は155名であり、春日井市の持株数は7,120株、持株比率は50.13%となっている。

2 主な事業内容

(1) 不動産賃貸業務

ア ホテルプラザ勝川

イ ルネック

ウ 勝川駅南口ビル

エ 勝川駅北立体駐車場

オ 月極駐車場

カ コミュニティ住宅（一般貸出）

(2) 公の施設の指定管理者業務

ア 勝川駅前公営施設

イ 勝川駅前地下駐車場

ウ 勝川駅南口立体駐車場

エ コミュニティ住宅（共用部管理）

(3) 施設管理業務

ア ホテルプラザ勝川

イ ルネック

ウ 勝川駅南口ビル

(4) 子会社（株式会社ホテルプラザ勝川）の管理

3 決算状況

勝川開発株式会社の第26期（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の経営状況は、売上高414百万円、営業利益70百万円となり、営業外損益を加えた経常利益は70百万円、当期純利益は9百万円を計上している。

なお、当期の貸借対照表、損益計算書は次のとおりである。

貸 借 対 照 表

(令和4年3月31日現在)

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
〔資産の部〕		〔負債の部〕	
流動資産	164,103,097	流動負債	28,261,910
現金及び預金	144,639,878	リース債務	3,534,925
売掛金	11,184,685	未払費用	9,342,735
貯蔵品	268,566	未払法人税等	6,572,100
立替金	6,322,616	未払消費税等	0
前払費用	1,478,691	前受金	6,838,751
未収入金	314,661	預り金	1,973,399
貸倒引当金	△106,000		
固定資産	1,295,291,816	固定負債	889,859,294
有形固定資産	976,399,979	長期借入金	864,300,000
建物	521,793,187	リース債務	2,903,094
建物附属設備	91,469,233	預り保証金	22,656,200
構築物	3,880,071		
機械装置	1,451,222	負債合計	918,121,204
工具器具及び備品	13,189,338	〔純資産の部〕	
リース資産	11,698,042	資本金	410,600,000
土地	332,918,886	資本剰余金	300,000,000
無形固定資産	4,244,000	資本準備金	300,000,000
ソフトウェア	4,244,000	利益剰余金	△169,326,291
投資その他の資産	314,647,837	繰越利益剰余金	△169,326,291
関係会社株式	290,000,360		
出資金	170,000	株主資本合計	541,273,709
長期前払費用	24,477,477		
		純資産合計	541,273,709
資産合計	1,459,394,913	負債・純資産合計	1,459,394,913

損 益 計 算 書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額	
売 上 高		414,652,738
売 上 原 価		283,987,703
売 上 総 利 益		130,665,035
販売費及び一般管理費		59,866,452
営 業 利 益		70,798,583
営 業 外 収 益		
受取利息及び配当金	2,763	
雑 収 入	1,599,701	1,602,464
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	440,008	
雑 損 失	988,051	1,428,059
経 常 利 益		70,972,988
特 別 利 益	0	0
特 別 損 失	55,939,499	55,939,499
税引前当期純利益		15,033,489
法人税、住民税及び事業税		5,654,748
当 期 純 利 益		9,378,741